

【地域版】公共施設タウンミーティング 会議録

日時	平成 30 年 8 月 18 日 14 時 30 分～17 時 00 分
開催場所	本庄ふれあいセンター 大会議室
対象地域	藍、本庄
参加者	41 人
市出席者	森市長、椋田技監、赤松理事、東野経営管理部長、江田危機管理担当次長、西田行政管理室長、山添市民協働室長、川田市民文化室長、奥こども室長、久高都市政策室長、古川地域整備室長、外岡学校教育部長
事務局出席者	西垣戸財務室長 公共施設マネジメント推進課：甲斐課長、木戸課長補佐、中根係長、酒井係長、松木主任、迫田主任、末田 協働推進課：松下参事、藤田地域担当課長（本庄担当）、北地域担当課長（藍担当）、寛長地域担当課長（三田担当）
議題	(1) 三田市の公共施設の現状・基本方針(案)の説明 ・「三田市の公共施設をとりまく現状」の説明 [木戸課長補佐] ・「三田市公共施設マネジメント推進に向けた基本方針(案)」の説明 [椋田技監] (2) 意見交換 [意見交換シートを活用]

会議の概要

司会	<p>1. 開会</p> <p>2. 市長挨拶</p> <p>3. 現状・基本方針(案)の説明</p> <p>4. 意見交換</p> <p>公共施設はハコモノ自体が重要ではなく、その施設が持つ機能がどれだけ皆さんの役に立っているかが重要と資料にあります。これについて、「真にその通りであると思いますが、マネジメント推進に向けた基本方針案には、この議論はないのではないのでしょうか。」というご意見を頂いております。</p>
参加者	<p>全く今お話のあった通りだと思います。利用させてもらっている側からしたら、三田市には絵師がおり、その方が絵付けをして多くの地方に陶芸品を売るという伝統がありました。それは文化です。文化を止めてしまうというのは、人の営みを止めるということです。ですからどれだけ大切な施設かということ、理解して頂きたいです。皆さんの生活の中には必ず陶芸品はございます。生活に直接関わっているものをバサバサと切られると、新しく入ってくる方がどんどん少なくなってくると思います。</p> <p>どこにどのようにお金を振り分けていくかは市でやっていただきたいと思います、通われている方の心情も考えてあげてほしいです。陶芸そのものが、ただ単に好きというよりも、生きがいになっている方もたくさんおられます。陶芸教室で伝統を再度取り返すという形で想いを一つにしなが、ここで陶芸をされています。バサバサ切るとするのは簡単ですが、そこに想いを寄せている我々とはまったく正反対のとこ</p>

るで物事が進められていくと、非常に悲しいです。市の財政がどうなっているかということもわかりますが、そこに想いを持ってほしいです。

市

古くから丹波の立杭焼きの産地ということで、当時、ニュータウン開発が右肩上がりの中、地域の活性化の施設として陶芸館ができました。また、都市と農村の交流の場として施設ができたという経緯があります。

市の案では、廃止、民間への売却と記載しておりますが、施設自体の所有を市が離すという考え方の案です。また、三輪明神窯史跡園も良くご存知かと思いますが、今後はこちらを拠点に陶芸の学習や体験講座を通じて普及理解に努めていきたいと考えております。文化を愛するという話もありましたが、色々な施設があり、市の財政状況をみる中で、苦渋の決断ですが案として示させていただきました。どの機能を残すかという中で、年間利用者 1 万人以上、1 人当たりの市の負担額 500 円を超える施設という一定のルールで、提案をさせていただいたところでございます。

参加者

今の陶芸館の話ですが、先ほどの発言と同感です。三田に引っ越して来たとき、市立で陶芸館があるということで感激しました。三田青磁はブリタニカ百科事典でもトップにでてくるぐらい有名と記載されています。

赤字だから切るというのではなく、市の姿勢として三田青磁をどういうふうを活用するか、私は歴史と伝統を持った文化財だと思っています。それを観光資源として活用できるし、赤字を解決する為にはもっと市として取り組めば、赤字はなくなっていくでしょうし、そういう方向性が全然ないというのが悲しいです。

三輪明神窯史跡園を拠点にすると言われましたが、拠点にするのは、陶芸館の方がより適していると思います。三輪明神窯史跡園は駐車場もなく、どれだけの人が入れるのでしょうか。陶芸館を歴史と伝統を守る文化財として、市として大々的にアピールして活用して赤字を解消する方法で考えていただきたいと強く思います。

市

三田青磁に関しまして、本日説明させていただきました基本方針の中の 8 ページをご覧くださいなのですが、中ほど上に、③施設運営等についての見直しというところの 6 番、三輪明神窯史跡園に、個別施設の方向性のところで、今後は歴史伝統のある三田青磁の拠点として、観光施設として積極的に PR していきたいと考えています。今後、三田青磁をどうしていくかということですが、公共施設のあり方とは別に整理をさせていただきたいと考えております。

参加者

社会教育の観点からも、三輪明神窯史跡園や公民館ではやりきれないですし、陶芸館があるのは誇りだと思っていますので、是非検討していただきたいと思います。

市

三輪明神窯史跡園は、学校で社会見学や体験の拠点として活用しております。

参加者

三田へ引っ越してきてから陶芸館でずっと活動してきました。陶芸教室や陶遊会のメンバーなどが毎日使っていて年間 6,000 人だというのは理解できています。

まず 1 点は、他の施設で年間 6,000 人は充分ではなくても、あの施設に 1 万人以上が利用したらとても作陶できないと思います。その辺の理解は市にあるのでしょうか。もう 1 点は市の負担額が 820 円だということですが、1999 年から陶芸館に通い始めて、利用料のアップの話は 1 度もありませんでした。多少の利用料を上げるということへの抵抗はなかったですが、そのような話もほぼなく、赤字だと言われる

ことが気になりました。この2点についてお答えいただきたいと思います。

参加者

補足説明させていただきます。1万人以上というのは、公共施設全体の話であって、陶芸館は1日20人程利用して300日で6,000人です。それを確実に1万人以上ないとダメというのはおかしいです。施設毎に考えていけないと思います。

司会

他にも意見交換シートから、今お寄せいただいたご意見と同様のものを頂戴しております。「利用料のアップをしてもいいので、市の負担軽減を図るべきではないでしょうか」というご意見です。合わせて答えていただきたいと思います。

市

まず、利用者人数ですが、1万人につきましては一定の基準として策定させていただきました。市が持つ施設として年間1万人に満たない施設はどうかというところで線を引かせていただいたというところでございます。

施設に見合う人数かというところでございますが、利用者数は平成14年度以降から6,000人程度の推移です。ただ、現行の体制であれば、8,000人から9,000人であれば対応が可能ではないかと、確認をしているところでございます。平成10年は陶芸ブームであり1万人を超えたこともあったと聞いています。

20年経つ間に、社会の皆さんの価値観やニーズも変わってきていて、最近の動向から見ますと、陶芸教室の1期の申込みの状況が、定員20名のところが半数にも満たないという状況で、私達も非常に寂しいです。昨年、1日陶芸教室ということで、ミニ陶芸教室を企画しました。カップや皿作りなど計52回を各回定員10名で募集をかけたのですが、最終的には定員の4割程度を切った時もあり、ニーズが落ちてきているという実態もあるのかと思います。そのようなところで市が持つ施設として1万人と判断しております。

料金の件ですが、今後、陶芸館のみならず他の公共施設を含めて足並みを揃え、バランスをみながら検討していく必要があると考えております。

参加者

まず、最初に現状の説明を受け、公共施設はハコモノ自体が重要ではなく、施設の機能がどれだけ皆さんの為になっているかが重要ですという説明を受けた矢先に、30年間で延床面積12%削減が目標であるということで、我々ではなく、目標ありきではないかと感じました。

市の施設であれば年間1万人が目安であるということですが、三田市民の人口11万で、複数回利用を含めず単純に考えれば、三田市民10人に1人が施設を利用しないといけないこととなります。その規模の施設って、どんなものだろうか、という気はしました。

陶芸館利用が1万人未満、市の負担額が500円を超えているという説明も、個人的には12%削減目標というのがあっての数値なのではないかと感じました。

市

数値ありきということですが、目標として当然数値はあります。人口がそれだけ減ります。今後、人口が11万人よりもまだ12%減る中で、人口15万人を目標としていた時に、計画して造ってきた公共施設をそのままにはできません。そして、高齢者対策でも税金を使わなくてはなりません。今までの右肩上がりの時に考えていたものを持ち続けることが出来るかという、出来ない、というのが初めに市から説明した内容です。

乳幼児の医療費を無料にしています、高齢者も増えていきます。そういう中で、働

いている方の人口も減っていきますので、税収も減っていきます。ですから 12%削減というのを、目標として持っているのは事実です。

その中で、どうやれば軟着陸できるかということで、統廃合できるものは統廃合していきます。今この場で議論の中心になっている陶芸館については、あくまで、皆さんにとっては色々な使い方がありますが、陶芸をやるのであれば、さんだ市民センターや藍市民センターがあります。そして文化というのであれば、三輪明神窯史跡園、ここがやはり文化を伝えるところだと市としては考えております。

参加者

三輪明神窯史跡園も三田青磁も大事ですが、あそこは狭いです。ですから、藍市民センターや、さんだ市民センターもありますが、それを陶芸館に集約したらどうでしょうか。三輪明神窯史跡園は三田青磁をしたらいいのではないのでしょうか。陶芸館も市がもう少し努力をしたらいいと思います。

参加者

他の陶芸のできる場所で、陶芸館と同じことが出来ると思われていると思いますが、できません。例えば三田青磁を焼こうとしたらできる場所は陶芸館しかありません。それはご存じでしょうか。いわゆる還元焼成という焼き方ができるのは陶芸館だけです。今ご意見のあった、陶芸館に統一されるのが、良いと思います。

参加者

三田青磁の三輪明神窯史跡園は、確かに大切なので、それはそれでいいと思いますが、藍市民センターは陶芸館と同じことをしているのではないのでしょうか。もしそうであれば陶芸館に統合していいのではないかと思います。

参加者

市職員は陶芸に関して知識不足ではないのでしょうか。陶芸館は還元焼成が出来ますけれども、他のところでは出来ません。また、三輪明神窯史跡園は駐車場がありません。そんなところに集約されるのは、どういう考えがあつてのことでしょうか。

市

まず、「三輪明神窯史跡園の重要性はわかるが、さんだ市民センターや藍市民センターの機能をこちらに持ってきた方がいいのではないか」ということについてですが、この2つの施設は、便利なところにあります。また、市民センターの中の一画ということで維持管理費も少なく済みます。

三田青磁が作れないという話ですが、三輪明神窯史跡園は、電気釜と言いながらガスも併用なので還元焼成も出来ます。実際に三田青磁も作っているという事実があります。市としては、市民の皆さまの趣味の場として提供する施設について、電気釜では物足りないという理由でのガス窯の設置や、還元焼成ができる施設の確保までは出来ません。

参加者

基本方針では、陶芸館と新陶芸館は廃止し、三輪明神窯史跡園へ統合を検討するとなっていますが、実際三輪明神窯史跡園の立地条件では統合出来るはずがありません。道も狭いし、駐車場もないし、何十人もの人が陶芸できる建物もないです。また、観光施設として三田青磁をより広めていく、PR すると言われていますが、どういうふうな形でPR されるのでしょうか。PR するからには下支えする市民がいて、それを趣味として、青磁を焼いたり、いろんな陶芸活動を活発化することによって、その三田青磁を世間にPR 出来るのではないのでしょうか。市民の立場に立って施策を決めて欲しいと思います。

参加者

地元で陶芸ができる施設があるというのは、他市ではありません。実際に入って陶芸をやると、みなさん非常に明るい気持ちでやっています。突然、新聞に記事がでて、びっくりしました。市の政は住民を含めてやっていくのが大事かと思います。どういふ努力をすれば宝物を残していけるかが大事だと思います。さんだ・藍市民センターにはろくろが1台か2台しかなく、学習するところではないと聞いています。三輪明神窯史跡園にしても施設の設備が劣っていますので、三田青磁に特化して、興味がある人が中心になって色々なものを作り、販売していく。そして陶芸を志望する人については、市がもう一度陶芸館の存在を考え直していただくのが非常に大事ではないかと思います。

市

まず、三田青磁については、市で別途考えています。

今日のご意見だけでなく、陶遊会の方から市に対してのパブリックコメントをいただいで見させていただいています。皆さん単なる趣味ではなく生きがいであるとか、交流の場であるとか、いろんな熱い想いをお寄せいただいでいます。

市としては公共施設を極力少なくしなければ、他の市政に使うお金もなくなってしまいますので、何とかしないとイケないという考えがあります。逆に、ここにお集まりの方は、なんとか新陶芸館を残して欲しいということで、このままでは平行線です。ただ、パブリックコメントや本日のご意見の中で、料金を上げてでも、という話や、存続する方向で検討していただけないかというご意見もいただいでいます。

例えばですが、陶遊会の方たちが中心になって、新陶芸館を市から譲り受けて、自主運営をするというのはいかがでしょうか。あくまで大まかな試算ですが、料金を倍にすれば自主運営ができます。光熱水費もエレベーターのメンテナンス代も、先生への支払いも全部できます。このような選択肢もあります。皆さんにとってピンチをチャンスに変えるということにもなります。

新陶芸館については、今日が皆さんとの最後のお話ではなく、ピンチをチャンスにして、譲り受けてもいいですよという提案があれば、市の関係部署と詳細を詰めていきたいとは思っております。

参加者

私も昨年、新聞発表があったときに、びっくりしました。講師の立場でお話ししますと、10年以上前から、受講生が減っていくことはわかっていました。昔は、どんどん受講生が入ってきて、そのまま抱えているとパンパンになってしまうので、2年で卒業してもらっていました。でも、三田市の人口がこれ以上増えないとなった時に、卒業してもらおうルールを変更して受講生として残ってもらうようにしました。

先程1万人というくくりがありましたが、確かに陶芸館で1万人を超えていたことがありました。実際運営している側からしたら、1万人というのは本当に目まぐるしくて、人口密度が高過ぎて無理があると思っていました。それが、だんだん減って行って、今6,000人です。もう少し多くてもいいのかもしれないとは思っています。

その為に宣伝や、まだ始まったばかりですがミニ陶芸などもしています。ただ宣伝については、広報の取材がなく、例えばインターネットやSNSで発信しようにも、陶芸館にはネット環境がないので、積極的な広報活動ができません。

料金を倍にしたら運営できるという話がありましたが、それも10年以上前から所長が変わるたびに料金を見直した方がいいと、安すぎると言っていました。その辺りは早く取り組んで欲しかったと思います。

また、京阪神地区からの観光バスなど旅行会社からルートに入れて欲しいという話も何回もありました。その度に市からは、断ってくださいと言われてました。なぜ断

るのか、攻めていかないといけないと思います。市民の方だけの陶芸館としていくのであれば、陶遊会を活気づけてやっていけばいいと言われますが、それだけではなく、他からのルートも必要だと思います、ただ、来て欲しいと言っても三輪明神窯史跡園に 60 人 80 人の団体を受け入れられません。観光バスも駐車できません。三輪明神窯史跡園も陶芸館もあつての三田の陶芸なのだと思います。

三田というのは立杭焼きのふるさとでもあると学会では言われています。末地区に古墳時代からの釜土があつて、その窯が移動していき今の立杭のところで定着しているという説です。だから、無くさずに、できれば攻めて色々なことを考えていったら良いのではないかと、株式会社三田市みたいに、上手く陶芸館を観光で利用したら良いのではないかと思います。

あと、三田市議会の後ろに三田青磁を模したタイルがあります。陶芸館で三田青磁のタイルを焼けますので、例えば市民の方に、あなたや生まれた赤ちゃんの手型を入れませんかと呼びかけたら良いと思います、それが三田市議会の後ろのタイルになりますとしたら、市民の市議会に対する愛着も増すのではないかと、そんなアイデアもありました。

市の施設だけれども、ほったらかしのように思えます。お荷物になってきたから、もういらないと感じてしまいました。そうではなくて、何とかして市が潤うような、集めた料金を運営費にあてれば良いのではないかと思います。

藍市民センターやさんだ市民センターは、陶芸館を利用しづらい人やその近くに住んでいる人が利用していて、少し違うと思います。立杭のふるさとでもある三田で陶芸館というのは、誇りでもあると思っていたので、もっと株式会社三田市というような考え方で、何か運営方法を考えていけたらと思っています。

司会 他の施設についてもご意見を頂戴しておりますので、あと陶芸館・新陶芸館のことで、ここだけはということがあればお願いします。

参加者 先程の市からの話は、指定管理者のことですか。

市 指定管理者ではなく、新陶芸館をそのまま譲り受けるということです。自分たちで物販をやり、使う時間や観光バスの受け入れも自由です。趣味に使う時間もできます。

参加者 譲り受けるというのは譲渡という意味ですか。

市 そうです。そういうお話を今後やっていきたいと考えています。

参加者 指定管理者というのは、全く考えられないでしょうか。三輪明神窯史跡園は指定管理者制度でされています。陶芸館は三輪明神窯史跡園の施設の一部と考えられないでしょうか。陶芸館は三田青磁を焼くための施設ということはできないでしょうか。

市 三田青磁については、まだ市の方針としての話は出来ませんが、別途市として考えています。

参加者 陶芸館、新陶芸館の今後の方向性を市で考えておられますが、修繕費等含めて負担額が少なくなるように収入と支出のバランスを検討するために、長期的なプロジェ

クトチームを組んでおられますか。また、そういう試算はされていますか。

市

試算はあります。

参加者

利用者の負担を考慮しながら市の負担も減らさないといけないので、今の1日陶芸の料金700円から利用者負担を上げてでも、あるいは指定管理者制度で三輪明神窯史跡園と同類的に考えていただけないでしょうか。このような検討の場に、お互いに方向性を見出していくために、利用者である我々も参加させていただけないでしょうか。

市

まず、指定管理というのは市が指定管理者に指定管理料を払って管理してもらうということですので、直営と殆ど変わりません。

私が提案させていただいたのは、陶遊会の団体に建物を譲りますということで、今後協議ができるのであれば、市と陶遊会だけでなく、ここで陶芸をされている方を含めて話し合いができればと考えています。

三田青磁については市の方で別途考えさせていただきます。

参加者

市の負担はわかりますが、歩み寄りするようなことを検討するような機会はないでしょうか。値上げするようなことは、ないでしょうか。

市

それも含めまして別途考えさせていただきます。

参加者

よろしくお願いいたします。

司会

他の施設についてもご意見頂戴しておりますので、紹介します。

まず、ふれあいプールについての意見を頂戴しております。将来に向けて場所の変更はあっても、ふれあいプールは存続させて欲しいというご意見です。また、区域外ですが、野外活動センターについても今後どうなるのでしょうかという質問をいただいております。

市

ふれあいプールにつきまして、いったん廃止という情報も出ましたが、先程説明にもあったとおり、検討した結果、大規模改修が必要になるまでは存続するということで考えております。大規模改修というのは、プール槽自体に大きな損傷が出て、取り替える必要がある場合を想定しています。プール槽の寿命が一般的に約30年と聞いており、平成34年度を迎えるところです。ただ、一般的に他のプールもそうですが、日常管理をすることによって、それが35年、40年になると聞いていますので、それまでは使っていきたいと考えております。

市

野外活動センターですが、今回の方針の中では一定の条件のもと存続ということで、今現在、利用者数及び市負担額において、基準をクリアしていますので基本的には存続です。ただし市負担額が上がってきていますので、将来的にはどうかということで、今の基本方針の中では大規模な修繕は行わずに、施設を更新するような修繕が必要になることがあれば廃止するとしています。

司会

本日たくさんのご意見をいただき、意見交換シートも頂戴しております。全てにつ

いて触れることはできず申し訳なく思いますが、これらについては全て目を通して方針等考えるにあたって参考にさせていただきます。

最後に市長から一言申し上げます。

市長

今日はどうもありがとうございました。かなりご意見いただきまして、私の方から先程の意見等踏まえ、今日の時点での市としての考え方として、参考にさせていただけたらと思います。

まず、公共施設マネジメントの進め方については、突然だという意見を多々受けております。そういう意味では市としまして、少し丁寧さなり、あるいはPRが足らなかったのではないかと感じています。また、市の職員が陶芸に関して知識が不十分ではないかというご意見もありました。専門の職員はおりませんが、色々なご意見を皆さんからいただき、教えていただきながら高めていくのが大事かと思っております。

三田市長になる前に、3年程加古川のいなみ野学園の学園長をやっていました。就任時に陶芸学科の廃止が懸案で挙がっていました。その際、いろんな意見を伺って、授業料を上げたり、色々な流派がある中で方針を抜本的に見直したら、結果的には欠員補充ができ、今は希望者が多いという状態になっています。陶芸をされる方の思いが強く、月に1回は必ず勉強をされるということで、陶芸というものは特に高齢者の方にとっては学び以上の生きがいになっているというのは、私自身、感じているところです。

公共施設マネジメント全体で見ますと、12%の削減ありきだというご意見をいただきましたが、三田の場合は、公共施設マネジメントの計画の後に、全体としての数字だけではなく、やはり個々の施設の独自性があるだろうということで、基本方針を作りました。見ていただくと、例えば廃止売却をするとしても1.78%です。それから、一定の条件のもと存続でも1.2%ということで、個別の数字を合わせても、とても12%に足らないのです。私は最終的に12%にするかどうかは大事ではなく、その過程の中で色々な議論をしていって、どういうふうに施設を使うかということが大事だと思っています。

ただ、これから公共施設マネジメントの12%ということに大きく影響するのは、学校の問題です。最近、神戸市長や西宮市長とお会いする機会がありましたが、必ず話に出てくるのは、施設を今後どうするのかということです。一つは病院の問題、クリーンセンターの問題、それから学校の問題です。丹波市や神戸市を含めて阪神間のほとんどでは、学校の問題は大体片が付いています。しかし三田の場合はこれからです。そこは三田の特殊性があります。クリーンセンターについても、色々議論がありますが、慎重に考えていかなければいけないと思っています。

今少し問題になっているのは、人口を増やすための施策が、他の市からの人口の取り合いになっていて、自治体同士がギクシャクしているところもあります。お互いの市の人口を取り合いするのではなく、子ども達を増やすとか、元気な高齢者を増やす施策へ方向転換をする動きもあります。人口が減っていくのは間違いありません。今の子ども達が大人になった時に、住みやすいまち、あるいは多大な税金を納めなくてもやっていけるまちにしていくのが必要かと思えます。

年間3回程、国に交付税等の要望を行っていますが、総務省から「三田はいつまで20万都市の夢を描いているのですか、これから10万に減っていくのに、このサイズ規模はどうなんですか」ということを必ず言われます。三田は20万都市を想定した道路整備や、住宅・公園整備をやっていると国からは見られているのです。今は財政や色々なことの転換期ですが、将来、今の子どもや孫が良いまちだと感じる、そして



そういう評判を聞きながら外から人が来るようにしていかなければなりません。

今一番頭を悩ませているのが、新聞紙上でもありました、中学校・小学校・幼稚園の空調問題です。神戸市や阪神間ではほとんどが、何年も前に全部空調が付いています。三田の場合はようやく今年、中学校に付けることができました。中学校を優先にしたのは、クラブ活動があるからです。来年からは、小学校・幼稚園へ空調の取り付けをしていきたいと考えています。しかし厳しい財政状況ですから、本当にやっているのか市議会で議論させていただきたい。今、財源を使うのは、子ども達に関することが非常に大事だと思っているからです。一方で元気な高齢者づくりもやっていきたい。この辺のバランスが市長としては苦慮しているところです。

そして、ふれあいプールですが、大きな変化が無い限りはやっていくつもりです。是非たくさん子ども達や大人たちに来て頂けるように市もPRしていきたいと思えます。

陶芸館、新陶芸館については、三田青磁のこともあり、本日も、そして以前からも声を聞かせていただいています。これはしっかりと受け止めて、先ほどの提案も含めて、再整理させていただきたいと思えます。再整理に当たっては、今日来られている皆様の代表の方々から意見を聞きながらやっていきたいと思っております。是非考えていただきたいのは、個人負担を増やすにしても、一定の税金を市から出していきます。そういう時に、多くの市民の方々が陶芸館、新陶芸館に対しての新たな税金の使い方で納得をしてもらえるということが非常に大事だと思えます。その為にも、しっかりとした提案を練る必要があります。その時は陶遊会をはじめ色々な方のお知恵をいただきたく思えます。そして、市役所だけが株式会社ではなくて、市民全体が株式会社の発想を持つことで、三田の陶芸のあり方について一定の方向を出していけたらと思っております。当然、市もしっかりと提案を出して、検討の機会をもたせていただきます。12月が一定の期限ですが、これを頭に描きながら、しかし将来に禍根を残さないように是非考えていただきたい。私は陶芸に関して素人ですが、活動をされている方にとっては、生きがいとなるものであり、そういうものをどうやって若い人に伝えていくか、地域でどんな仕掛けをしていったらファンを増やしていけるのかが課題です。一部の人たちだけではなく、世代を超えて、三田は若い世代を含めて、まち全体が、非常に活気があるという陶芸のまちにならないといけません。そういう意味では施設ありきではなく、ソフト面で色々な形でやっていく必要があるのかと思えます。ただ、お金の使い方については多くの市民の方、陶芸に全く関心のない方にご理解いただく、そして税金だけではなく、いろんな形で資金を使っていくということを念頭において是非考えていただきたいと思えます。

今三田市は、財政状況が非常に厳しい状況ですが、世代を超えて生き活きとやっていくまちにしていきたいと思えます。是非ご協力いただきたいと思えます。今日色々ご意見をいただきました。あとで回収箱にいただいたご意見についても、全部目を通して活かしたいと思えます。何卒よろしく願いいたします。